

令和6年度（2024年度）第3回東海市青少年育成センター運営協議会 会議録

1 会議名

令和6年度（2024年度）第3回東海市青少年育成センター運営協議会

2 日時

令和7年（2025年）3月13日（木） 午後2時から午後3時まで

3 場所

東海市芸術劇場 リハーサル室

4 出席者

運営協議会委員

小野 偉稔、古市 秀一、高木 眞子、神野 治、小島 晴美、小島 あづさ、
古谷 仁彦、坂野 正信、山口 哲也、廣田 雅明、大村 幸正、塚田 洋介
(計12人)

※欠席者 荒井 貴徳、山口 陽平

青少年育成センター職員

佐々木所長、青井主幹、平林少年指導員、岩田少年指導員、杉浦教育相談員

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴者

なし

7 協議事項

- (1) 令和6年度（2024年度）事業結果について
 - (2) 東海市の少年における情勢について
 - (3) 令和7年度（2025年度）事業計画（案）について
- (1)から(3)について、事務局より資料をもとに説明を行った。

8 その他

【主な意見・質問】

<令和6年度（2024年度）事業結果について>

・研修会について

（委員）愛知少年院への視察研修について、矯正教育という話があったが、少年院へは発達障害のある少年も送られてくると思うが、どう変わっていくのか。

（事務局）時間で区切る規則正しい生活を送っている。矯正と言っても個を無視するわけではなく、それぞれに合わせたプログラムを考えている。

・各種講座について

（委員）万引きは低学年が増えているという説明があったが、多くなっている背景は何かあるのか。

（事務局）具体的な要因はない。ただ欲しかったから勝手に取ったというような状況が多いように感じる。子どもたちのモラルの低下を感じるので、少年指導員による出前授業では、万引きをするとどのようなことが起きるのかを具体的に伝えるようにしている。

・パトロール活動について

（委員）「20歳の集い」に伴うパトロール活動について、20歳の集いでは全国的に荒れた地域もあると聞くが、東海市では何か問題はあったのか。また、補導されたものはいなかったのか。

（事務局）式典で暴れたり補導されることはなかった。

・その他

（委員）チラシを配付しているとのことだが、保護者が読んだほうがいいと考えるが、児童・生徒に配るだけなのか。

（事務局）子どもと親と一緒に考える機会にしてほしい。今後、内容を膨らませていければと考えている。

・居場所づくり推進事業活動結果

（委員）各種活動のボルダリング競技とボウリング競技はどのような方法で募集しているのか

（事務局）校長会に依頼し、各小中学校に掲示していただいて募集している。

<東海市の少年における情勢について>

・青色防犯パトロールについて

(委 員) 青色防犯パトロールは誰が行っているのか。

(事務局) 青少年育成センターでは、少年指導員二人がパトロールを行っている。二人でパトロールをする時は青色回転灯を回してパトロールを行っているが、一人の時は回転灯を回さずにパトロールを行っている。

(委 員) 人員は増やせないのか。

(事務局) 青少年育成センター以外に交通防犯課で2台の計3台が市内を回っている。青少年育成センターでは、子どもの安心安全を目的としてパトロールを行っており、交通防犯課では、交通安全や防犯、道路標識等に異常はないかなどを確認しながら市内を巡回している。

(委 員) 地域でも青色防犯パトロールを行っていると思うが、地域で回っている台数は何台か。

(事務局) 把握していない。

<その他>

・部活動について

(委 員) 中学生の部活動の地域移行について、部活動は異年齢と一緒に活動する場で、先輩・後輩といった組織の仕組みを学ぶ場と感じており、結果的に非行の抑制にも繋がっていると思う。

(事務局) 中学校の部活動の地域移行に関しては、東海市のHPに詳しく掲載されている。今回の部活動改革は、「地域の子供達は、学校を含めた地域で育てる」という新しい部活動のかたちを構築していくと考えていただければと考える。

(委 員) 今後は、中学生が地域活動などに参加できる機会が増えると聞いている。

(委 員) ボーイスカウトやガールスカウト、ジュニアリーダークラブなど、今までは部活があっても参加できなかった活動にも参加してもらえるのではと思っている。子ども達にとっては、幅広い体験活動に参加できる機会が増えると期待している。

(委 員) この機会に県立高校の部活動改革についてお話をしたい。県立高校でも部活動改革が進んでおり、部活動への参加は、今までの全員参加型から生

徒の主体性に任せ、部活動の参加を希望制とする方向で進んでいる。また、部活動改革のもう一つの理由として、教員の働き方改革。教員も共働き世帯が増え、介護を抱える教員もいるなど生活環境も変わっていく中で働き方改革の一つとして、県立高校も部活動の形が変わっていくことをお伝えする。